

第 21 回「自然とふれあおう！わんぱく KIDS」

報 告 書

2022 年 9 月 1 日

主 催

特定非営利活動法人 シンク・イー

目 次

理事長 ご挨拶	>	1
実施概要	>	2
組織・役割	>	3
5日間のプログラムのポイント	>	4
5日間の様子	>	5
5日間のプログラム	>	6
スタッフ及びリーダー 所感	>	6～7
協賛	>	8



理事長 ご挨拶

日頃より、私どもの活動にご理解・ご協力ありがとうございます。

3年ぶりに「自然とふれあおう！わんぱく KIDS」の開催をすることができ、無事に終わることができました。関係各位に感謝申し上げます。

感染拡大防止対策に関して、事業目的やキャンプの性質上、ソーシャルディスタンスや会話を控える等といったことは現実的ではなく、毎日の検温の実施、また抗原検査を重視し、出発前日には全員の検査、現地ではのどの痛みや発熱のある者に検査をしました。いずれも、陽性結果は出なかった為、現地での全員一斉の抗原検査は実施せずに済みました。

児童から大学生に至るまでのかけがえのない成長ステップに、この2年半のコロナ禍は非常に長い期間であったことがキャンプ生活からも実感されました。チームで話し合い、協力して活動するという体験が少ないと思われ、キャンプでの基本行動になれるまでだいぶ時間を要しました。また、朝会やプログラムごとに集合し、そこで注意事項などの話を聞くということがなかなか難しく、今までにない状況にスタッフも苦慮いたしました。体験の場を奪われてきた子どもたちに、今まで以上にキャンプなど地域教育の意義が高まったと痛感いたしました。

誤解を恐れず申し上げれば、感染防止を理由に黙食や会話を控える、科学的根拠のない人数制限をする等は、現段階においてコロナ感染による健康リスクより、子どもの心の成長への弊害のほうがはるかに高いと考えます。

私どもは、自分の考えを持ち、他者の考えを認め、社会で率先して役割を担うことのできる自立した人々が協力する社会「自立型共生社会」の実現を理念に活動しています。

本キャンプは、自然とのふれあいにより五感を研ぎ、人とのふれあいにより対話力を養うことを目的に実施しています。

地球規模での自然災害の増加や不安定な国際社会など、次の社会を担う子どもたちの環境は厳しいものと思われませんが、自ら道を切り拓き、より良い社会を築き幸せになってほしいと切に願います。今後とも、ご支援の程よろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人 シンク・イー 理事長 喜多 隆正

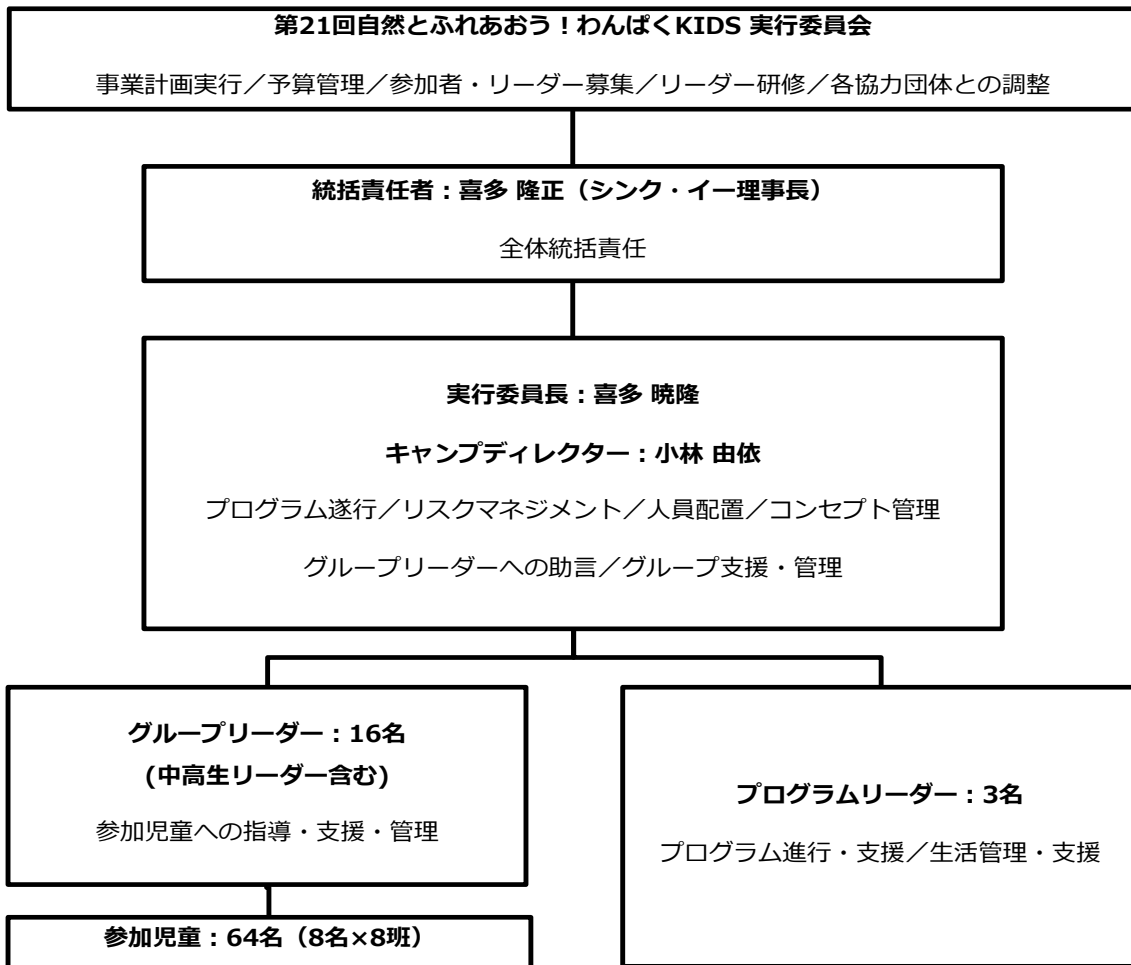
実施概要

構成団体	主催	特定非営利活動法人 シンク・イー
	後援	中央区教育委員会 特定非営利活動法人 東京中央ネット
主催団体 理念	「自立型共生社会の実現」	
事業名称	第 21 回「自然とふれあおう！ わんぱく KIDS」	
事業目的	青少年の健全育成・ボランティアリーダーの育成	
事業コンセプト	「自分でできることは自分です。できないことは助け合う」	
開催日程	2022 年 8 月 7 日(日)から 8 月 11 日(木) 4 泊 5 日	
開催拠点	東京 YMCA 山中湖センタとーその周辺地域	
事業概要	リーダー 2 名と 3～6 年生 8 名で 1 つの班を構成 全 8 班 班別行動を基本とし、湖・山などの豊かな自然環境の中で各アクティビティを体験する組織キャンプ	
参加者	中央区在住・在校の児童 3～6 年生 計 64 名 (応募者数：184 名 参加予定 72 名のうち 8 名が感染のため直前にキャンセル)	
ボランティア人員	中高生リーダー	8 名
	大学生・大学院生	8 名
	社会人・リーダーOB	3 名
	NPO	5 名
YMCA 職員	約 10 名	
問い合わせ先	特定非営利活動法人 シンク・イー E-MAIL : 2022wanpakukids@gmail.com	
写真&報告書 DL	URL : http://www.tokyochuo.net/meeting/kids/jigyuu/wanpaku2/index.html ※写真掲載は、NPO 法人東京中央ネットに協力いただいております (掲載時期：9 月下旬頃を予定)	

QR コードはこちら



組織・役割



5 日間のプログラムのポイント

■わんぱく KIDS の約束

- 1、自分でできることは自分でしよう！
- 2、ひとりでできないことは助け合おう！
- 3、あいさつをしよう！
- 4、身の回りはきれいにしておこう！
- 5、生き物はたいせつにしよう！
- 6、リーダーになんでも相談しよう！

■方針

生活重視（あいさつ・清掃・整理整頓・履物をそろえる・身体をよく拭いてから浴室を出るなど）

■清掃・整理整頓

毎朝清掃と荷物整理をし、身の回りを自ら正す経験から生活面での自立への気づきを促す

■食事

手をつける前に自分の食事量を考慮し、同じテーブルのお友達とシェアをし、残さないようにする
嫌いなものは目標量を決めて食べる努力をする

■班旗づくり

班のシンボルとなる旗を作り、班員としての意識を高める

■湖・山での自然体験

都会で出来ない体験により自然への理解を深める
自然での遊びを通じて常にチャレンジをし、成功・失敗体験をする

■野外調理(食育・食を通じた健康や生命に関する教育)

他の生き物の命をもらって生きていることへの気づき
家族をはじめ多くの人たちの労力があって食事ができることへの意識付け

■班別自由プログラムの計画と実施

班ごとに決めたスローガン達成のため、4日目のプログラムを話し合い計画する
自己分析、集団の意思決定、自立への気づき
自己・他者を大切にすることの重要性の認識

■キャンプファイヤーとふりかえり

最後の夜にこれまでの思い出を発表し、全体の一体感と達成感を高め、キャンプの収束とする

5日間の様子



5日間のプログラム

	8月7日	8月8日	8月9日	8月10日	8月11日
朝		起床(7:00)	起床	起床	起床
	T-CAT集合(7:45)	朝会/掃除	朝会/掃除	朝会/掃除	朝会
	T-CAT発	朝食	朝食	朝食	朝食
					大掃除
		班別行動(ローテーション)	ハイキング(バノラマ台~きらら)	班別自由プログラム	
	トイレ休憩(予定:談合坂SA)	・カヌー/ボート		(カヌー、ボート等)	退所式
		・工作(水鉄砲)		(施設内/外)	
		アクティビティ(施設外)			
	湧水の里(公園・水族館)	野外調理	昼食(弁当)	昼食(弁当)	相模湖公園
昼	昼食(弁当)	昼食(野外食)			昼食(弁当)
	YMCAセンター着		YMCAセンター着	班別自由プログラム	
	オリエンテーション	カヌー	自由時間		
	クイズラリー (カヌー予備日)	自由時間	・水遊び(水鉄砲など)		
	グループキャラ作り		入浴	入浴	
	入浴	入浴			T-CAT着/解散(15:30)
	夕食	夕食	夕食	夕食	
夜	きもだめし	花火	明日のプログラム計画	キャンプファイヤー	
				班別ふりかえり	
	消灯(21:00)	消灯	消灯	消灯	
	リーダーミーティング	リーダーミーティング	リーダーミーティング	リーダーミーティング	

スタッフ及びリーダー 所感

<実行委員長：喜多暁隆>

本年度は挑戦の年であったと感じています。3年ぶりの開催の中、場所、人数、体制、プログラム等、全てが例年とは異なり、イレギュラーな状態での開催でした。天気変化の激しい山中湖は子どもたちにも色濃く残っていることかと思われまます。

しかしながら、その4泊5日を過ごすことができたのは、保護者・関係者の方々、ボランティアリーダーやスタッフの方々、大勢の方のご支援、ご協力の下で成り立つ事業であると再認識することが出来た年でもありました。この場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

また私自身、13年前にキッズとして参加してから、今年度、実行委員長という立場を初めて担い、より強くそのように感じました。

限られたリーダー及びスタッフでの運営は容易なものではありませんでした。全てが異例の中での開催は経験者にとっても、大きな壁であったと思われまます。しかし、自分のやり方で其々が、自分で出来ること、助け合うことを実行していたことで、成果あるものと実現できた、この4泊5日間でした。

<キャンプディレクター：小林由依>

キャンプディレクターを担当しました、こっちゃん(小林由依)です。わんぱくKIDSは、「思い通りにならないけど、この時間を何とかやりきる」という体験の連続だったかと思ひます。初めて会った人たちと、急に集まって、一緒にご飯を食べたり、遊んだりと団体行動をしていく。キッズもリーダーも、自分の思い通りに人が動いてくれなくて、意見がまとまらなくて、煮え切らない思いをしたと思ひます。でも逃げ出すわけにもいかないし、4泊5日だと、「よし、やるか」と個々に一念発起せざるを得ない状況に追いやられるんですよね。2泊3日だと、やり過ごせてしまうので。この時間の長さがわんぱくKIDSの最大の特徴であり、魅力だと思ひます。キッズもリーダーもスタッフもフルマラソンと一緒にやりきるというイメージですね。今回のマラソンも、何とかみんなで助け合いながら、事故なく怪我なく終えることができました。今は達成感に酔いしれております(笑)こっちゃんはまた来年もこのフルマラソンに参加しますので、また皆さんに会えるのを楽しみにしております!!6年生はリーダーとして参加してね!待ってるよ!

<グループリーダー及び実行委員長補佐：竹田萌花（大学1年）>

今年のわんぱく KIDS は小学生 64 名を連れて山中湖へ行きました！

行きのバスから初対面とは思えないほど活気あふれる会話が飛び交い、4泊5日間の期待が募ると同時に終わりの見えない会話に体力的な不安も募る一方でした。宿舎に向かう道中で水族館に寄りました。水族館ではたくさんの魚たちと出会い、目を輝かせている子どもや「写ルンです」で写真を撮りすぎてしまい、初日から残り10枚という悲しみにくれている子どももいました。宿舎に到着してからは、班ごとに旗作りを行いました。リーダー同士で旗の色を争奪しましたが、子どもたちは想像と異なった色の布を持って帰ってきたリーダーを見ても優しく受け入れてくれました。思い思い好きな絵を描き、とてもかわいらしい旗が完成しました！初日の夜は肝試しを行いました。お化けと化したリーダーは蚊に約20箇所刺されても勇敢に、通り過ぎてゆく子どもたちを驚かしていました。また、怖がるリーダーを子どもたちが守ってあげるという感動シーンも見ることができました。

2日目はカヌーに乗りました。私たち6班には雨女と噂されるリーダーがいたため、カヌーに乗っていると目も開けられないほどの大雨が私たちに襲いましたが、子どもたちが全力で漕いでくれたおかげで無事に陸に戻ることができました。野外調理では火を起こせる班、起こせない班がありましたが、班同士でも助け合い、なんとか全ての班でカレーを作ることができました。6班はスープカレーとなってしまいましたが、それでも美味しく食べていた子どもたちの笑顔は忘れられません。しかしながら、案の定「おかわり！」の声は6班にはありませんでした。

3日目の夜は、次の日の班別自由行動でやりたいことや目標を考えました！初日に会った時よりも笑顔が増え、自分の考えをたくさん伝えることができている班員に、私たちリーダーは心打たれました。

4日目の班別自由行動では、前日に決めた遊びを疲れるまでやり切ることができました！また、夜のキャンプファイヤーではみんなで歌ったり、4日間の思い出を語ったりと4泊5日を振り返り、これまで過ごしてきた仲間とのお別れが近づく悲しみも生まれてきました。最後は相模湖公園で遊びました。本当にこの後お別れするのかと思うほどみんな全力で遊び、たくさん笑っていました！しかし最後のプログラムも終わり、バスに戻る頃には既に別れを悲しむ子どもたちの姿も見受けられ、私自身も寂しい思いがありました。

大変でしたが、とても充実したキャンプができました！子どもたちが来年も参加したいと言ってくれてとても嬉しかったです！また来年も会いましょう～

<グループリーダー：鶴殿理奈（高校1年）>

今回は3年ぶりのコロナ禍での開催となりました。私自身は2回目のリーダーとしての参加でしたが、今回は3年前よりキッズとの歳が離れたこともあり、班の子どもたちの団結力が4泊5日を通して深まっていく様子を客観的に見ることができました。今年は場所が変わったためプログラムも変わり、リーダーにとってもキッズ達にとっても初めての体験が多かったです。特に4日目の班別自由行動では、前日に子どもたちの間で話し合い、みんなが納得できる予定を立てました。しかしそう簡単に意見がまとまることもありません。そこで5・6年生が舵をとり班員の意見を聞き、一人一人の要望が叶うように促してくれました。そして4日目、班員が誰一人嫌な思いをすることなく1日を終えることができました。

コロナ禍での開催はとても難しかったと思います。しかし開催することによって、キッズや私たちリーダーにとっても何事にも変え難い、貴重な経験をさせていただくことができたと確信しております。

今回高校生リーダーとして参加し、自分がキッズ側として参加していた時には気づきませんでした。リーダーはキッズの命を預かる大事な役割であり、見えないところでキッズの為にたくさん動いてくれていることを知りました。そして今年、自分自身も年上のリーダーと共に活動することによって自分自身の成長も感じることができました。このようなかけがえのない出会いと体験にあふれたわんぱく KIDS に参加させていただき、ありがとうございました。

協賛

(株)ロイヤルパークホテルズアンドリゾーツ (株)建設技術研究所

物品協賛・協力

(株)オーガニックキッチン

(公社) 東京青年会議所 中央区委員会

天麩羅 天音

古屋法律事務所

富江 裕子

永塚パートナーズ法律事務所

(株)サヨカ

(株)トミタ

木嶋 正佳

大森造園建設(株)

(株)日本ワークサービス

下目黒歯科内科

高松建設(株)

(株)セントラルエステート

小坂こども元気クリニック

(株)ネオ・コミュニケーションズ

タチバナアーツ管理(株)

(株)小川商会

半澤 勝己

(株)マウンテン・ワン

(株)サプル

飯塚 宜広

前田 千晴

桑原 宏史

(株)ダヴィンチ

朋和商事(株)

(株)中央コミュニティー

(※順不同 敬称略)

<当報告書に関するお問い合わせ先>

特定非営利活動法人 シンク・イー

E-mail : 2022wanpakukids@gmail.com